



「まちなみバル」盛況

まちなみバル

連なる屋台に、たくさんの方が訪れました



テーブルを囲んで交流を楽しむ



リヤカーゴと呼ばれる屋台

まにわ 真庭

9月1日、勝山町並み保存地区で食べ歩き飲み歩きを楽しむことができる「まちなみバル」が開かれました。まちの活性化につなげようと、20代、30代の勝山地域中心の有志でつくる「勝山まちなみ会議」が今回初めて開きました。イベントでは地ビールやクレープなど12店舗が並び、多くの方が交流を楽しみました。勝山まちなみ会議は今後も若者のアイデアやまちへの思いを形にできる取り組みを進めていきたいとしています。

8月25日、樫東にあるどんぐり広場で、竹で遊ぶ催しが開かれました。地域おこし協力隊員の寒川英隊員が代表を務めている「かしむら遊び隊」と久世にある放課後等デイサービス「ピタゴラス」、地域おこし協力隊員の篠原洋隊員が共同で初開催。この日は、樫邑地区の子どもとピタゴラスを利用しての子どもたちが竹トンボやペン立てづくり、竹を楽器にしたりポウリングにしたりして遊びました。

竹で遊ぼう！自然にふれよう！

BAMBOO FESTIVAL



竹の的に狙いを定めて



8月25日のアニメーションマッピングの様子

8月18日から9月2日の間、勝山町並み保存地区を中心に、まにわ映像フェスティバル2018が開催されました。期間中は、東京工芸大学と地域の人たちの協力で、町並み保存地区に設置されたのれんに映像を映し出すアニメーションマッピングのほか、映像と音楽が楽しめるジャズライブ、ソーマトロップ作りのワークショップ、映像の上映などが実施され、さまざまな映像の楽しみ方ができるイベントとなりました。

勝山のまちをアニメーションが彩る

まにわ映像フェスティバル

9/1 趣味を生かした力作を披露

勝山文化センターで第8回まにわ工芸祭が開催されました。会場には真庭工芸会の会員111人の趣味を生かした力作がずらりと展示されました。訪れた人たちは会員と交流しながら作品に見入っていました。



9/2 年を重ねても白球追いかけて

勝山運動公園で軟式野球のV50シニア大会が開かれました。大会は、50歳以上の野球愛好者同士の親睦と健康増進を目的に行われました。選手たちは秋晴れの下、最後まで力いっぱいプレーを楽しんでいました。



9/8 漆や郷原漆器の世界を満喫

漆づくしのツアー「漆の雫」が行われました。参加者は漆からとった出汁を使った創作料理を食べ、漆の林で漆掻きを体験したり自分の掻いた漆を器に塗ったりして、漆や郷原漆器の魅力に触れていました。



9/11 木山の秘密基地

木山寺の敷地内で、秘密基地作りが行われました。岡山県立大学の学生が自分たちで考えた案を形にするため、木山郷土保存会と協力しながら、タイヤを埋めたり、昨年完成した遊具の修繕などを行いました。



9/13 得意な手芸で楽しく過ごす

中山玉恵さん(社)が9月13日に百歳を迎えられました。手芸が得意でレース編み、ぞうり、人形などを作っておられたそうです。長寿の秘訣はみんなと話し、よく食べ、よく眠ることと教えてくれました。



クロモジってなんだろう 見て触ってしっかり観察

9月15日と16日の2日間、農作業体験ツアーが開かれ、岡山、大阪などから家族連れら32人が参加しました。このツアーは、山村地域の魅力を体験してもらいたいと、中和地域の地域自主組織、農業生産法人などで構成される協議会が企画。参加者は田畑の見学やコンニャクづくり、クロモジの茶摘みなどの地域農業や食を体験し、地元の人との交流も楽しみました。協議会は今年12月に第2弾のツアーを予定しています。

**山村地域の魅力を体験
中和で農作業体験ツアー**



地元の落酒造を見学する学生たち

8月25日と26日の2日間、北房農泊推進協議会の活性化事業「AZAEプロジェクト」が行われました。このプロジェクトは岡山商科大学と同協議会の連携により7月にスタート。若者の発想や感性を吸収して活性化に生かしていくもので、今回は学生と教授ら6人が参加し、北房地域の現地見学やミーティングなどを行いました。今後、学生たちの発案による北房地域での滞在コンテンツづくりに着手していきます。

**学生と取り組む活性化
AZAEプロジェクト第2弾**